

Kwacha (クワチャ) はチェワ語で「夜明け」を意味します。

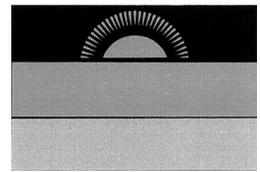
編集・発行：日本マラウイ協会
〒150-0012 東京都渋谷区広尾 4-2-24 青年海外協力協会気付
Tel. 03-3447-2181 Fax. 03-3447-2933
Home Page <http://www.joca.or.jp/malaw/malawi-j.htm>
E-mail hi-ueda@mwc.biglobe.ne.jp

面積：118,484 平方 km (日本の約 1/3)
人口：975.7 万人 (1995 年)、首都：リロングウェ
独立：1964 年 7 月 6 日、公用語：英語、チェワ語
政体：共和制、大統領：バキリ・ムルジ
為替レート：US\$1 = MK 44.70 (2 月 1 日現在)
MK 1 = 2.6677 円 (2 月 1 日現在)

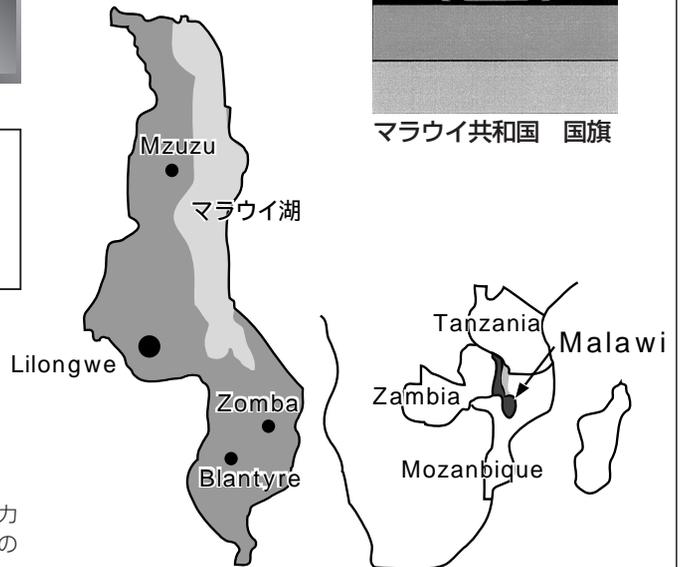
【日本マラウイ協会 (Malawi Society of Japan)】

日本とマラウイ両国間の理解を深め、文化、スポーツ、経済、科学技術等の協力を通じ、相互の繁栄に寄与することを目的とする任意団体です。趣旨をご理解の上、広く各位の入会を希望します。

会員数：263 人 (2 月 1 日現在)



マラウイ共和国 国旗



'98 国際協力フェスティバル

98 年 10 月 3 ~ 4 日にかけて東京・日比谷公園で「'98 国際協力フェスティバル」が開かれた。これは外務省の協力で国際協力フェスティバル実行委員会が主催、国際協力事業団、海外経済協力基金などの共催で毎年開催されているもので、今回で 8 回目。日本マラウイ協会は、94 年の初参加から 5 回連続の参加となった。



【ナンビンドー等書記官 (左) と共に】

当日は割り当てられたテントに、マラウイ国内の写真パネルを展示し、マラウイを紹介した資料を配布すると共に、当協会編集の国情紹介誌「マラウイ The Warm Heart of Africa 第 2 版」や旅行ガイドブック「暖かきアフリカの心 - 湖とサバンナの大地へ」をはじめ、青年海外協力隊 (JOCV) マラウイ派遣 OB/OG が持ち帰った民芸品などの販売を行なった。



【4 日、参加者と来訪者と共に】

また、今回初めての試みとしてマラウイ風揚げパンのマンガジ (マンダースとも呼ばれる) を実際にテント内で作り、マラウイ産紅茶・チョンベティーとセットで販売した。このセットは 2 日間で 317 食の売上げがあり、出展テントを視察された駐日マラウイ大使館のバンダ臨時代理大使、ナンビンドー等書記官をはじめ、日本で研修中のマラウイ人からも高い評価を得た。

さらに、大使館職員がテント内でマラウイの紹介案内を務めるなど、駐日大使館の全面的な協力を得て、大きな PR 効果を得ることができた。

ナンビンドー書記官、高田小学校へ

98 年 10 月 15 日、駐日マラウイ大使館のナンビンドー等書記官が島根県仁多町立高田小学校 (錦織明校長、全校児童 36 人) を訪問した。日本マラウイ協会は同年 1 月以来、同校とマラウイのカチエレ小学校との交流を側面的に援助している。



【公開授業の様子 - 毎日新聞社提供】

同書記官はこの日、前日から島根県内で行われていた第 47 回全国へき地教育研究大会の一分科会である高田小学校での「ほくらの交流は 2 万キロをこえて」と題した公開授業を見学したもの。児童たちは手作りのマラウイ国旗を掲げ、マラウイ国歌をチェワ語で斉唱して迎え、同書記官を感激させた。

公開授業では 6 年生の藤原雄太郎君の進行でカチエレ小学校との今後の交流方法が活発に話し合われた。同書記官もこの話し合いに参加し、「これからも良い関係を続けていきましょう」と激励と感謝の言葉を贈った。

同書記官の島根県来訪にあたっては、一昨年、同小学校で講演を行い、児童がマラウイへの関心を持つきっかけを作った JOCV マラウイ OB 小玉哲生氏 (H6 年 3 次隊 薬剤師) が出雲空港出迎えから県内移動、町役場敬愛訪問、小学校授業見学等に随行し、通訳等を務めた。

日本マラウイ協会は今後とも、この高田小学校とカチエレ小学校の交流の側面支援を続けていく予定である。

《マラウイ短信》

この欄のニュースはデンマークの「Malawi News Online」から抜粋し要約したものです。各項目の冒頭の日付は同ニュースの配信日を示しています。

日本マラウイ協会は同紙と配信契約を結び、記事の要約・掲載について許諾を得ています。記事の著作権は同社に帰属します。

48% が貧困ライン未満 (98年9月25日号)

平均寿命、識字率、購買力で国をランクづける人間開発指標 (Human Development Index : HDI) の98年データが9月13日に発表された。

この指標で、マラウイは174ヶ国中161位に留まっており、エイズの流行と経済の衰退から昨年の159位から2位後退した。

マラウイ国民の48%は1日1米ドル未満の収入で生活し、国民1,200万人のうち576万人が1日1米ドル未満の収入で生活していることになるという。

UNHCR 事務所閉鎖 (98年9月25日号)

リロングウェにある国連難民高等弁務官マラウイ事務所が99年半ばに閉鎖される。同事務所は90年代初期まで100万人を超える難民の支援をしてきた。事務所長によると、難民数が2,000人未満まで減少してきており、資源・財源不足と相まって事務所の維持を正当化できないためという。

現在、殆どがエチオピアからの難民で、残りはブルンディ、ルワンダ、コンゴ民主共和国からの難民である。隣国モザンビークの政府とレナモ反政府勢力との内戦時には、マラウイは最高120万人もの難民を受け入れ、受入地区では医療、水、土地、樹木などの資源提供において大きな負担をしいられた。

30万本の電話加入者線必要 (98年9月25日号)

マラウイ郵便電気通信公社のマイク・マカワ首席事務官は9月23日の記者会見で、マラウイはアフリカで最も電話普及が遅れている国のうちの1つであると述べた。

マラウイの持つ通信設備には65,000回線の電話加入容量があるが、そのうち36,000回線しかつながっていない。しかも28,000回線が都市部の240万人からしかアクセス出来ず、地方部の960万人は残りの8,000回線を共用しなければならない。これは100人に0.3台(マラウイ全土)の普及率に相当する。

アフリカでの最低推奨普及率である100人に2台を満たすには、あと30万回線の加入者線が必要という。

マラウイ鉄道買収に3社入札 (98年9月25日号)

マラウイ鉄道のエノック・リンベ首席事務官は南部アフリカ鉄道技術委員会作業部会で、外国の3社がマラウイ鉄道1994会社の政府からの買収に対して入札していると述べた。それらは、7つの会社から選抜されたモザンビークのCFM鉄道、南アフリカのスプールネット、イギリスのGB鉄道である。

マラウイ鉄道は現在、政府管理下の会社であるが、同氏は来年までに完全民営化しなければならないと述べた。また、もしCFM鉄道が落札すれば、インド洋まで制約のないアクセスが確保でき、マラウイの貿易の利点となるだろうと述べた。

人口増加率低下 / 母の日 (98年10月13日号)

マラウイ保健省のウェスレイ・サンガラ保健・人口担当官は母の日の10月12日、人口増加率が低下傾向にあると発表した。

それによると、過去20年間の3.5%/年の人口増加率は2%に向かって低下傾向にあるという。担当官は新しい傾向をプラスの開発成果と表現しながら、低下傾向は政府の家族計画に関する指導、土地問題、養育コストの増大、資源不足などに起因すると述べた。

母の日は1967年以来、10月17日であったが、新政府は10月の第2月曜日に変更した。前政権下では母の日は伝統的ダンスや他の活動で象徴されていたが現在は静かに祝われている。

ミス・マラウイ選ばれる (98年10月13日号)

21歳のイレネ・ンクワジさんが10月9日、美人コンテストでミス・マラウイに選ばれた。美人コンテストは83年に前政府が禁止していたが95年に12年間の中断後に再開され、今回で4回目。イレネさんは全国他の8人の参加者を勝ち抜き、1,250米ドルの現金とジンバブウェ・ハラレと南アフリカ・ヨハネスブルグまでの往復航空券を獲得した。入賞者は18歳のレネ・ガマさんとレイシャル・ムンデランジさんであった。

コンテスト委員会のカーバー・ビマ議長はスポンサーに対してもっと賞品を増やすようにまた、国民にはコンテスト参加者を軽蔑視することを止めるように訴えた。

中央病院看護婦、ストライキ突入 (98年11月10日号)

ブラントアイアのクイーン・エリザベス中央病院の看護婦たちが11月9日、賃金増額、危険手当の導入、住居・労働条件の改善を求めてストライキに突入した。看護婦たちは、彼女らの代表者が保健省当局者と要求について話し合う間、職場に戻り仕事をするようにとの当局者の訴えを無視した。

看護婦たちは産科病棟と集中治療室を除く

全ての部門で最小限のスタッフだけを残してストライキに入った。ある看護婦は、患者を放っておきたくないが、政府は看護婦たちの不満に耳を傾けて欲しいと述べ、国会議員の苦情にはすぐに対応するが看護婦のそれには対応しない政府の姿勢を非難した。

ストライキが早まった原因の1つに、20名以上の看護婦が新設の近代的なムワイワツ私立専門病院へ転職し、その補充がまだ行われていないことが挙げられる。

議会党、バンダ氏を偲ぶ (98年12月9日号)

何千人ものマラウイ議会党員は12月3日、故バンダ前大統領の死去後1年を偲び、墓に祈りと花輪を捧げた。97年11月25日に亡くなったバンダ氏はリロングウェに埋葬されている。

グアンダ・チャクアンバ議会党々首は、30年間に多くのことを成し遂げた建国の父としてのバンダ氏を記憶に留めることは全マラウイ人にとって重要なことであると述べた。

式には外交使節、政権党であるUDFの第1副党首アレカ・バンダ氏および同党員、他の政党员らが参列した。

99年 選挙人登録 (98年12月9日号)

選挙委員会は99年総選挙のための選挙人登録開始日を、暫定的に99年2月1日に設定した。

委員会のフローラ・チルワ氏は、不正な選挙人証明書をチェックする方策として、資格のある全ての選挙人を新たに登録し直すこととし、その写真を撮るために登録を早く始めると述べた。登録は30から60日間行われる。委員会は撮影のためのカメラを125台購入し、500台をガーナから借りる。

一方、委員会は選挙のための新しい行動規範を作成中であり、政党等から提案を受け付けている。大統領・国会議員選挙法および選挙委員会法により、規範を破った者は罰せられる。

総選挙日程決定 (99年1月8日号)

選挙委員会は98年12月16日、複数政党政制による2回目の総選挙を99年5月11日に、また、地方自治体選挙を3ヶ月後に行うと発表した。

委員会のウィリアム・ハンジャハンジャ議長は、マラウイ政府と援助国は7億クワチャの予算提案に対して、4億6,300万クワチャだけ認めたと述べた。

ラジオ・パーソナリティ死去 (99年1月8日号)

マラウイで最も人気のあるラジオ・パーソナリティの1人であるフィリップ・モヨが98年12月30日、ブラントアイア・アドベンティ

スト病院で亡くなった。46歳だった。彼が朝のラジオ番組で披露したユーモアは、マラウイ国民の記憶に永く留まるだろう。

彼の人気は大変なもので、70～80年代のほとんどの期間エンターティナー中のエンターティナーとしてタイトルを獲り続けた。

彼は1975年にアナウンサー研修生としてマラウイ放送公社に入ったが死去と同時にチーフ・プロデューサーに昇格した。

副大統領、腎臓移植 [99年1月8日号]

98年12月にジャスティン・マレウエジ副大統領に腎臓を提供した従兄弟のルクワ氏は、移植手術の行われたドイツのボン大学病院を退院し、今週、マラウイに帰国する。

在ドイツのジョフレイヤー・チブング・マラウイ大使によると、ルクワ氏は健康上、何の問題もない。一方、副大統領の病状もほとんど回復したが、あと1～2週間、医師が回復状況を見極めるため病院に留まる必要があるという。

政府、国旗を変更を決定 [99年1月8日号]

マラウイ政府は国旗と国家の同一性をはっきりさせるために、そのデザインと色を変更することを決定した。

アルフレッド・ウビンディ大統領府内閣事務官によると、マラウイ議会党の新しい党旗が現在の国旗と同じ色(緑)を使い続けている状況から、変更を決定したという。

当初、マラウイ議会党の党旗は国旗と同じ赤、黒、緑を用い、太陽の模様が黒地の部分にないことだけが違っていた。議会党は政府にその色を変更するよう求められていた。

議会党は政権を離れても緑赤黒をキャンペーンの目的のために使い続けたが国会での決定で、赤と黒を落として緑一色の下地に白地を背景にした黒の鶏を配したデザインを用いている。

石油輸入を自由化 [99年1月8日号]

マラウイの石油会社は2月1日から、石油管理委員会を通じることなく、直接、石油を輸入できるようになる。

政府によると、この措置は自由市場と私企業の投資を促進させることによって、私企業分野の発展を図るという政策に沿ったもので、価格が下がることにつながるという。

《アフリカ関係出版物情報》

■澤野 新一郎 OB、

写真集「神々の花園」を刊行(99年5月予定)

当会会員でJOCVマラウイOB(S61年2次隊)の写真家・澤野 新一郎さんが、本年5月に写真集「神々の園」(日/英版)を刊行されることになりました。

南アフリカ・ケープ州のナマクワランドは、広大な平原に4,000種類もの野生の花々が咲き誇り、その美しさからGarden of the Gods(神々の花園)と呼ばれています。澤野さんは96年より毎年(8-10月)、このナマクワランドにご家族4人で滞在し、撮影を行うと共に、日本に帰国中は各地で写真展、講演会、スライドレクチャーを開いたり、雑誌、テレビなどで日本では知られていないアフリカの側面を紹介する活動を続けられています。

澤野さんの写真集は、5月の出版を前に南アフリカ大使館等の協力を得て作業が進んでおり、収益の一部は、南アフリカの自然保護と子供たちのために使われることになっています。予約開始は3月から販売価格は5,000円(予定)とのことです。詳細についてお知りになりたい方は、下記までお問い合わせください。また、インターネットホームページでは、「神々の花園」だけでなく、澤野さんのライフワークである「出産に立ち会う家族の風景」などについても紹介されています。

スタジオレミトン 澤野 新一郎

Tel.090-1507-6499

E-mail:sawano@lemiton.com

Home page:<http://www.lemiton.com>

■マラウイ関連書籍案内

最近刊行されたマラウイ関連の書籍、雑誌を、紹介します。

(1)「The Warm Heart of Africa」

星美代子 著 (近代文芸社 1,200円+税)

JOCVマラウイOG(H4年2次隊)の星美代子さんが、マラウイで勤務した92年～94年までの2年間をまとめた書。

「クィーンエリザベス中央病院で看護婦として活動する中、日本では想像のできないような病気や、患者を目の当たりにし、「貧困」という重大な問題が自分の想像を越え、無力を感じずにはいられない現実を知った。日本では簡単に救える患者があつという間に息を引き取っていく。物も金もないマラウイには延命のための治療は必要がなかった。自然の法則に従っている人々と、救命することに執着している自分との考えのギャップに戸惑いながら、「幸福」や「豊かさ」の本当の意味を考えさせられ、自分の価値観だけでは援助の意味を成さないということを実際の活動を通して感じ取った」と星さんは言う。そんな思いが本書の中で綴られている。

(2)「アフリカ 豊饒と混沌の大陸 南部編」

船尾 修 著 (山と渓谷社 1,800円+税)

昨年、月刊誌「山と渓谷」に連載されていた「アフリカ縦横無尽 山と人の博物誌」(マラウイ・ムランジェ山編は、98年10月号に掲載)などを単行本化したもの。著者の船尾修氏はアフリカ・中央アジアを主なフィールドとするフォトジャーナリスト。通算4年間で、アフリカの約30カ国を訪れた。本書にはマラウイをはじめ南部アフリカ各国での見聞が、会話や人物描写などを忠実に再現し、克明にまとめられている。

(3)「世界地理 10 アフリカII」

福井 英一郎 著 (朝倉書店 16,500円+税)

昨年11月に刊行。本書にはマラウイをはじめ、中/西/東/南部アフリカ各国の地理だけでなく、歴史、政治、経済などについても紹介されている。参考文献として、当協会編集のマラウイ国状紹介誌「Malawi - The Warm Heart of Africa」などが使われた。

(4)月刊誌「世界の動き」98年8月号

(編集発行:世界の動き社

TEL 03-3436-5280、1部215円)

同誌は外務省の編集協力により発行されている月刊誌。98年8月号では巻頭特集として、グラビアを含む10ページにわたってマラウイが取り上げられた。

《ホームページ情報》

インターネットでマラウイ関連の情報を集めたい方のために、前号に続いてホームページの情報をお届けします。

■マラウイ大使館 URL 変更

駐日マラウイ大使館ホームページURLが昨年10月1日から下記のように変更になっている。
<http://embassy.kcom.ne.jp/malawi/index.htm>

■現役隊員レポート

村上 愛 隊員(H9年2次隊 薬剤師)の電子メールによる現地レポート。画像も豊富。山口県下関市のホームページに掲載されている。
<http://www.city.shimonoseki.yamaguchi.jp/seisaku/sougou.htm>

■サザン・アフリカ・エージェンシー

南部アフリカ諸国に関するテレビ、新聞、雑誌等の取材コーディネートをとする会社のホームページ。南部アフリカ諸国のトピックス、国別データ、渡航ガイドなどが掲載されており、マラウイの情報も詳しい。
<http://www.africa-j.com/index.html>

■インターネット国際情報銀行マラウイ支店

マラウイに関する情報と、他のマラウイ関係ホームページへのリンク集。外国、日本ともリンク先が豊富。
<http://www.iiib.com/MW/index.html>

■外務省提供マラウイ情報

外務省のホームページ内にあるマラウイ関係のページ。次の2つがある。いずれのページにも二国間関係、文化関係の項目で日本マラウイ協会のことが紹介されている。(地域事情と日本との関係)
http://www.mofa.go.jp/mofaj/world/kankei/f_malawi.html
(マラウイ共和国概要)
<http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/chikyuu/africa/shiryu/malawi.html>

日本マラウイ協会 平成10年7～12月活動概況

(1) 島根県高田小学校とマラウイ・カチェレプライマリースクールとの交流に関する支援 (第1面参照)

【これまでの経緯】

昨年6月、高田小学校側より「10月15日の公開授業の際、大使館の方に高田小学校へ来てもらい、話をさせて頂きたい。」との要望があった件に対し、当会としては実現に向けての協力を前向きに行ないたいという返答をしていた。

【9月】

高田小学校の担当教諭より当会あてに「大使の来校計画案」が届く。当会が上記の件を大使館側に依頼し、その後、高田小学校側との連絡調整等を行なった結果、10月14～15日(1泊2日)に大使館側が公式訪問することとなった。

【10月】

15日、大使館のナンビンドー等書記官が高田小学校を訪問、同校の公開授業等を視察した。氏は学校側の厚いもてなしに感激した様子で、「これからもマラウイ及びカチェレ小学校との交流を続けて欲しい」旨、述べられた。(当会からは氏に対し、高田小学校訪問の際のレポートの作成、提出を依頼。)

なお、今後の島根県高田小学校とマラウイ・カチェレプライマリースクールとの交流に関する支援については、両校の今後の交流状況を踏まえた上で、当会から協力出来ることがあれば

支援を行なうこととした。

(2) 埼玉県川口北高校 町田教諭からの要望に対する協力

【8月】

同教諭は同校にて国際交流クラブの顧問をしているとのこと。『9月に行なわれる同校の文化祭にてマラウイやユニセフ等の紹介をしたいのでパネル、民族衣装、ビデオ等を借りたい。』との要望があったので、当会から希望の品々を貸出した。(文化祭終了後、国際交流クラブより、貸出した品々の返却と共に礼状を受領した。)

(3) 98 国際協力フェスティバルへの参加

【10月】

3、4日の両日、日比谷公園にて行われた国際協力フェスティバルに今回も参加し、例年のパネル展示、ビデオ上映、民芸品および書籍等の販売に加え、マンダジ(揚げパン)とチョンベティーのセットを販売し、2日間とも盛況に終わった。

なお、両日の収入(民芸品と揚げパン、紅茶セットの売上金)と支出(民芸品と食材料の購入費)は当会の今年度末決算書に計上することとした。

(4) チェワ語辞典改訂版作成の検討

【7月】

JOCVマラウイOB進藤寿則氏(S60年3次隊)よりチェワ語教本を作成した際の電子ファイルの提供を受けた。

【8月～】

現在、旧版のチェワ語辞典ならびにチェワ語

教本(2冊)の印刷物を、パソコンを使用して電子ファイルへ変換する作業に取り組んでいる。これによってできた旧版等の復元ファイルを今後改訂版の叩き台とし、JOCVマラウイOB/OG等へ校正(スペルチェック等)追記(不足する基本語彙などの追加)を依頼する予定。

(5) JOCVマラウイOB大野邦晴氏から卒業論文寄贈

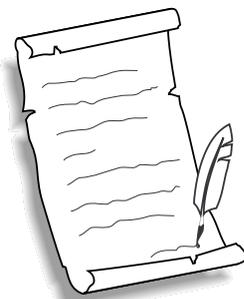
【12月】

慶應義塾大学法学部在籍中の大野邦晴OB(H元年2次隊)が『マラウイ共和国における政治体制—民主主義と権威主義—』という卒業論文を作成。その執筆にあたり「日本マラウイ協会の出版物および助言を参考にさせて頂いた。」とのことで、冊製された論文1冊が当会に寄贈された。

(6) マラウイ外務省リベンガ事務次官から届いた手紙への対処

【12月】

マラウイ外務省事務次官より当会宛てに手紙が届く。内容は、当会がマラウイに対して行う可能性のある支援プロジェクトについて、その正式依頼手続き等について。当会は回答について継続検討とした。



日本マラウイ協会情報

■日本マラウイ協会の刊行物

(1) 国情紹介誌「Malawi - The Warm Heart of Africa」第2版 A4版40ページ 1部1,000円(送料310円)

(2) マラウイ旅行ガイド 新訂第2版「アフリカの暖かき心、湖とサバンナの大地へ」B5版108ページ 1部1,200円(送料310円)

各書ご希望の方は、本ページ最後の入会方法の欄に記載の郵便振替口座宛に、代金および送料をお送りください。その際、振込用紙通信欄に「xxxx xx冊希望」と明記のこと。なお、「チェワ語(マラウイ国語)辞典」については、現在在庫切れのため、近く改訂版を発刊することを計画しております。

■ご意見、ご質問をどうぞ

日本マラウイ協会に対するご意見、ご要望、ご質問などありましたら、下記当協会宛へご連絡なくお寄せください。また、電子メールによるマラウイ関連情報の配信も行っておりますので、電子メールアドレスをお持ちで、ご希望の方がおられましたら、あわせてご連絡ください。

■日本マラウイ協会 月次定例会

日本マラウイ協会では、毎月第3水曜日18:30～に、東京都内(通常はJOCV広尾訓練研修センター1F研修室2)で、月次定例会を開

催し、マラウイ関連の支援活動などについての討議や、マラウイ関係者間の情報交換などを行っております。参加は会員でなくても構いません。初めての方も大歓迎です。詳しくは、下記の当協会までお問い合わせください。

■日本マラウイ協会 入会方法

ご連絡いただければ入会申込書をお送りしますので、各項記入の上ご返送ください。また、入会金と年会費の合計(個人正会員の場合1,000円+3,000円=4,000円)を下記の銀行口座または郵便振替口座へお送りください。(郵便振替口座が安くて便利です)

〒150-0012 東京都渋谷区広尾4-2-24

青年海外協力協会気付 日本マラウイ協会

TEL:03-3447-2181 FAX:03-3447-2933

E-mail:hi-ueda@mwc.biglobe.ne.jp

●三和銀行 東恵比寿支店 普通口座 255739

口座名義人:日本マラウイ協会 名誉会長 卜部敏男

●郵便振替 00190-7-13125 加入者名:日本マラウイ協会

また、協会規約その他についても上記宛お問い合わせください。